

## 遺産を活かして

先人の手によってつくられた遺産を現在に活かす蘇るような工事をする機会をいただき、その様子を紹介いたします。



池の畔にたたずむ、原瀬(はら ひろし)先生の胸像(中央)と、蛇体鉄柱式共用栓(左下)

### ~早春の花木~



#### ヤブツバキ 藪椿

ツバキ科・常緑小高木・本州~沖縄に分布

寒い時期に赤い花がよく目立つ。本種から改良された色やかたちの異なる園芸品種も多い。秋に熟す果実からは精製して椿油がとれる。

東京都西東京市に在る東京大学田無キャンパス(東京大学・生態調和農学機構、旧東大農場)の方から「ちよつとややこしい仕事があるけど見に来てくれませんか」との依頼をいただき、「単純で簡単な仕事がいいのです」と言いつつ、昨年4月に現地調査と打合せをしました。

仕事の内容は現在キャンパス再整備工事を各種行っており、その一環として昭和初期につくられた現在活用されていない池をさせるようにする、1940年に建立された功績のある先生の胸像を元々あった台座(石)の上に配石して設置する、明治大正期に使われていた古い水道の共用栓を池の脇に据付して給水口としての機能を持たせるというものでした。

打合せ時に倉庫に通された古い水道の共用栓を見たときは、こんなに古いものがよく残っていると感動した反面、このような文化的なものを利用しての工事が上手くいくのかとの不安が過ぎりました。ただ実際ふれてみて、古いものは丈夫で重たくつくられており、工事中も破損したりする事はありませんでした。

調査から図面の作成などを経て実際の工事は7月から施工して約1か月間で終了しました。言葉は悪いのですが、少し荒れ果てた状況から過去のものを集めて活かして、新しい景色が見られました。お世話になりました教職員の方々に改めて感謝申し上げます。

## 工事概要

### 水生植物園池改修工事

- ・ 開口部コンクリート躯体工
- ・ 排水工
- ・ 給水工
- ・ 池かさ上げ工

施工の様子は裏面です

### 胸像移設等工事

- ・ 原瀬先生 胸像設置
- ・ 既存景石 配石設置
- ・ 胸像周辺植栽基盤整備



施工前(全景)



施工後(全景)



道端にあった共用栓の使用イメージ(東京都水道歴史館 HP より引用)

### 蛇体鉄柱式共用栓について

明治から大正期に使われた、市民が水くみに使用した、道端などにあった水道の共用栓です。

鉄柱の蛇腹模様から蛇体式と言われる説があり、水の吐出口は獅子や龍の形があります。



倉庫に保管されていた蛇体鉄柱式共用栓  
吐出口は獅子(ライオン)

### 胸像の人、原瀬(はら ひろし)先生とは

- ・ 1868(明治元)年 加賀藩生れ ~ 1934(昭和9)年 逝去
- ・ 東京帝国大学農科大学の園芸学講座を担当しながら、初代附属農場長を約23年間歴任しました。
- ・ 農学科の園芸学講座を果樹・野菜・生産花卉を扱う園芸学第一講座とし、新たに造園・展示花卉を扱う園芸学第二講座を創設しました。この間、「公園の父」と称されている林学科の本多静六博士とともに、学科を横断して造園学講義を開設し、造園・園芸教育の拡充に尽力しました。
- ・ 明治神宮内苑・外苑の造営に関わった際には、才能溢れた多くの若い研究者を招き、指導しながら実務に就かせました。この結果、多くの優れた専門家が地方に赴任し、今日の地方自治体の公園緑地行政の基礎も築いています。さらに、日本庭園を東洋独自の芸術とみなし、荒廃していた文化財庭園の名勝指定への道筋も作っています。

☆原先生の詳しいご功績や東京大学田無キャンパスに関わる情報は、東京大学生態調和農学機構ホームページ「農場博物館」をご覧ください



# 施工の様子

完成すると外から見えなくなる部分が多くあります。実際に施工がきちんと行われたのかを確認するためにも、特に隠れてしまう部分の施工写真は重要です。

## 水生植物園池改修工事

- 【A】壊れている池の躯体の開口部を塞ぎ、水がたまるようにする
- 【B】排水は浸透ますを設置して敷地内処理とする
- 【C】給水は蛇体鉄柱式共用栓から吐出するようにする
- 【D】池を砕石でかさ上げし、転落等した際の安全性を高め、水生植物を植えられるようにする

### 【A】開口部コンクリート躯体工



①施工前 壊れて開口している、池の躯体（壁）。



②鉄筋コンクリートの躯体（壁）をつくるための配筋設置したところ。



③型枠を組み、コンクリートを打設している。下の穴は浸透ますへの排水口。



④施工後 コンクリートの躯体（壁）が出来た。

### 【B】排水工



①施工前 壊れている池の躯体（壁）の写真左側に浸透ますを設置する。



②池の下にトレンチ管（有孔管）を設置して、浸透ます側に排水させる。



③浸透ますはかなり大型のものをつかった。写真は砕石やますを入れる前。



④擁壁と浸透ますの間には排水バルブを設置している。



⑤施工後 土で埋め戻したため、地上からは、ますの蓋が見えない。

### 【C】給水工



①施工前 池の出島みたいな箇所に共用栓を設置するための基礎づくり。



②給水管や給水バルブを設置。



③給水管を埋設している。今回は水道管との接続は別工事となった。



④施工後



⑤水中ポンプを利用して、通水試験を行い、吐出状況の確認をした。

### 【D】池かさ上げ工



①施工前 まずは池の掃除から。泥や落ち葉を掻きだしている。



②池掃除完了。



③単粒度4号砕石を約60m<sup>3</sup>投入した。



④池のかさ上げは、池の擁壁天端から約35cm下がりにするようにした。



⑤施工後

## 胸像等移設工事

- ・古い小屋のコンクリート基礎の上に、原先生の胸像を載せる台座の石を据付、周辺に附属している碑文のある石など合わせて計4石を配石
- ・胸像周辺に客土をし、リュウノヒゲを植栽する



①施工前



②基礎となる土台を形成中



③台座の石はコンクリートで固定



④石の周辺に客土、先生を載せる前



⑤台座の石と胸像の固定は接着剤



⑥台座に載る直前の原先生



⑦施工後（正面）



⑧視線は先生ゆかりの駒場キャンパスを見つめる

## 原瀬先生、胸像の旅

胸像は1940年に弥生キャンパス園場内に建立されました。その後1970年頃に園場の温室拡張に伴い、胸像は弥生キャンパスの研究室に移設・保管されました。一方、台座を含む4個の石は千葉市検見川の大学施設に保管されていましたが、当該施設の統合・廃止により、田無キャンパスに石のみ移設・保管されました。

原瀬先生は初代農場長を務められたことから、田無キャンパスの整備工事に合わせ、縁深い同キャンパス内に長期間分かれていた胸像と台座が復元・設置されました。昨年10月には、多くの関係者が集まり、胸像除幕式が執り行われました。



～当社では障害者、親と暮らすことが出来ない子供たちの施設（社会福祉法人）に皆様から頂いた書類の使用済み切手等を使い、支援活動をしています～